

大麦の収量向上には、出芽・苗立ちを確保して、越冬前に茎数をしっかりとることが重要です。

そのため排水対策・土づくり等の基本技術を徹底するとともに、播種は適期内に終わられるよう計画的に作業を行いましょ。

## 1 排水対策の徹底

・稲刈ったら 即、額縁排水溝を設置

- 稲刈後、額縁排水溝を設置し、確実に排水口へ連結しましょう。
- 砕土率を上げるために、播種前までに十分ほ場を乾かしましょう。

## 2 土づくり・基肥

・大麦はpH6.0~6.5が最適

- 石灰質資材は、**10a 当たり 100kg 以上**を耕起前に施用し、**pH 6.0~6.5**を確保しましょう。

○基肥は、

- ① 分施の場合、**BB555 で 10a 当たり 35~40 kg を施用**しましょう。
- ② 肥効調節型基肥の場合、**LP 大麦 48 号で 10a 当たり 45 kg 程度を基本**に、地力に応じて施用しましょう。

## 3 適正な播種

・播種は9月末~10月上旬を中心に

### ○種子消毒

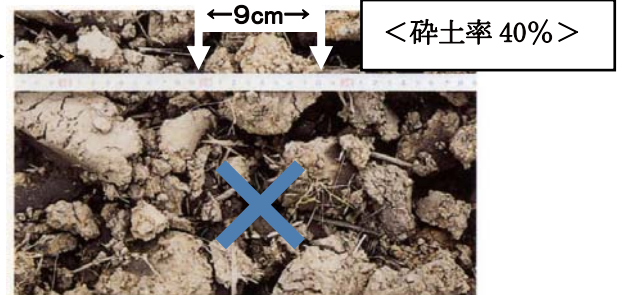
雲形病等の発生を防ぐため、種子消毒は必ず行ってください。「ベンレートT水和剤20」を、乾燥種子重量の0.5%湿粉衣（乾燥種子10kg当たり200mlの水を加え、薬剤50gを均一に混ぜる）する。

### ○播種作業

- ・播種は、**必ずほ場が乾いた状態**で行い、**耕起・播種・作溝の一連の作業は、1日で完了**させましょう。
- ・トラクターの速度は低速にし、砕土率60%以上を確保しましょう。

砕土率低い（長径2cm以下の割合が少ない）と、

- ・出芽揃いが悪い。
- ・除草剤による薬害が発生しやすい。



### ○播種量の目安

- ・播種時期・播種方法に応じた播種量で目標苗立数を確保しましょう。
- ・ドリル播きでは、深播きにすると出芽揃いが遅れ、分けつの発生率が低下します。**播種の深さは3cm程度に設定**してください。

表 目標苗立数と播種量の目安

播種期	目標苗立数 (本/m <sup>2</sup> )	播種量の目安 (kg/10a)	
		ドリル播き	表面散播
9月25~30日	140	6.0	6.5
<b>10月上旬</b>	<b>150</b>	<b>6.5</b>	<b>7.0</b>
10月中旬	200	8.5	9.0

表 雑草防除（ドリル播き限定）

除草剤名	使用量	使用時期
トレファノサイド粒剤 2.5	4~5 kg/10a	播種後発芽前
トレファノサイド乳剤	200~300ml/10a	播種後発芽前

使用上の注意

- ・表面散播したほ場には使用しないでください。
- ・散布直後に多量の降雨が予想される場合は散布を控えましょう。

### ○播種時の排水対策

- ・3~4mに1本の割合で、幅30cm、深さ20cm以上の基幹排水溝を設置しましょう。
- ・また、成畦によってできた溝は、基幹排水溝や額縁排水溝に連結し、雨水が流れるように連結しましょう。

水稲の収穫・乾燥調製作業や大豆の収穫作業との競合が予想される場合は、大麦の播種が遅れないよう、事前に調整しましょう。